第８回 北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議

【開催日時】　令和３年 11 月 25 日（木）
【開催方法】　オンライン会議
【出席者】　９団体・企業
【主な意見】

【需給状況】

（輸入材の状況）

- 輸入材は、見かけの量は入っているが、中国からの代替品が多く、実際流通に回せる量はそれほど多くない。資材の種類によっては、全く足りないものがある。
- ヨーロッパのメーカーは、日本に対して値段を下げてまで大量に売りたいわけでないため、ある程度の価格を維持しながら生産調整し、出荷を続けていくのではないか。
- 先日来のカナダ BC 州の豪雨被害による影響が出れば、もう一段カラマツの状況が悪化すると懸念している。

（建築材等）

- カラマツ製材工場の原料在庫は、前回の連絡会議が開催された8月の会議の時よりもさらに厳しい状況。
- 来期に向け、春までに一定の在庫量を持てるのか、今後の入荷の見通しが立ちづらく危機的な状況。
- トドマツについて、業界全体としては原木不足という話を聞いているが、需要は落ち着いた状態。
- 合板用原木の集荷を始めるという話が聞かれるため、先々の動向を注視しながら進める必要。
- 建築関係では、もうしばらく輸入材が高い状況が維持されるか、一部値上げする話もあるが、我々としては、製材・原木ともに、今ぐらいの価格が維持できれば良いと考えている。

（原木）

- 一般民有林については、9月末時点では、下期には前年度比約115％の出材を見込んでいたが、間伐の増加により減少する見込み。
- 国有林において川上の事業体は、立木販売の必要量をある程度確保してきていると推測されるが、今後も充足しない木材については、素材販売を中心に継続的・安定的に供給していく考え。
- 道有林においては、10月末までの販売物件は全て落札されている状況。また、立木の買い受け者には可能な限り早期伐採、搬出について依頼している。
- 本州では原木価格が高騰している割に、北海道は1・2割の値上げに止まり、それほど大きな影響は受けていない印象。

【今後の対応方向】

① 原木の安定供給

- 今は、木材、原木から製材等の利用について考えているが、北海道の大きな売りは、主伐した跡にきちんと植えているということであり、その後のカーボンもきちんと蓄積していることが重要。
- 原木については、トドマツはまだまだ予断は許されない状況だが、改善傾向にあり、先が少し見通せている気がするが、カラマツは非常に厳しい状況が続いている。
- 木材を使えば良いというトレンドがあるような気がするが、目指しているのは、その後にきちんと木が植えられて資源が回っていくことを実現していくことが大変重要。

② 道産木材の供給力強化

- 輸入材の価格が戻っても、国産材が頼りになるというふうに思っていただけるような体制を作る必要。
- 道内で一般材を挽いている工場は、小規模な工場が多く、新たに加工機や乾燥機を導入するのは容易なことではない。
- 供給側としては、原木をしかるべき価格で取引して、きちんとした製品をつくり、それに利益率が出る価格設定をしたうえで、受け入れてもらわなければいけない前提がある。
- 輸入材のリスクをヘッジするためにも、住宅産業の大きなプレイヤーであるプレカット工場に原材料を確保するための投資という観点からの検討も必要。
- ストーリーづくりをしていけば、多少高くても一定量は、引き続き道産材等を使っていきたいという声はあり、時間はかかるが、この動きを継続したものにしていきたい。

【まとめ】

- 大きな増減がなく、一定の価格で一定の量を供給ができるといった安心感を使う側の人に伝えていくことが重要。
- カラマツは、一般民有林からの出材力や供給力をまずあげていかなければならない。
- 中長期を見据えた中でどういった生産体制を作って、どのように流通させていくのかというところも、これを機会にしっかり検討を進めたい。引き続き検討を続けていきたい。